

議会運営における質問のあり方

講師 山梨学院大学教授
江藤 俊昭氏

児玉郡町議会議員
後期研修会

1/15水

於 本庄市「セルデイ」

児玉郡市の議員交流を深めるため、本庄市議会議員研修会への参加形式による研修会が開催されました。

「議会運営における質問のあり方」と題し、質問の議会運営における位置・議会改革の到達点を踏まえた質問等々、多岐にわたり講演がありました。

議会運営における位置の中で、反問（反問権）という聞きなれない文言がありました。間違った解釈はいけませんので調べてみました。これは質問者に対して「問い返す」ことができる権利。地方議会において「首長に付与する権限」と注釈されていました。



議会での議論の活性化と町民の皆さんに分かりやすい議会運営にするために、一問一答方式の選択と反問権付与を議会改革の中で検討するのも一案と考えます。

政策では、決算議案に関わる提言書の提出については「議員全体でやるのか」「委員会全体でやるのか」論点をしっかりと見極め、決算の視点を明確にし、次年度の予算編成の討議材料にすることなど、検討すべき課題が多くあるなと思いました。

一般質問のあり方については、質疑力の重要性の確認から行い、資質力の向上等々、一年生議員にとっては大変有意義な研修でした。

また、議会改革の中で「議会だより」の編集について、地方自治体も工夫しているとの事例をもとに、見やすい中身の濃い住民参加型の話があり、取り入れるものがあれば取り入れ、誰もが親しめる「議会だより」にしていきたいと思っています。

委員 櫻澤 明

少子化に伴う学校運営

常任委員会合同視察研修

1/30木

於 栃木県矢板市

栃木県矢板市における小中学校の適正配置と小中一貫教育について研修してきました。

矢板市では、8小学校と3中学校があり、小学校においては少人数の学校も存在し、これらの学校の統廃合も含めて検討委員会を立ち上げて、検討を重ねてきたそうです。特に複式学級による弊害などはないのか？

美里町では、過去に複式学級による学校運営は経験がなく、今後、少子化が進むと複式学級による学校運営も考えていかなければならないと思いますが、そのためにも早めの対策が必要になってくると考えます。

複式学級になると、1学級で教科書が違ったり児童が存在したり、体育の授業などでは体格の違う児童に対する教職員の対応など、さまざまな問題点が考えられます。

美里町では、小中学校の適正配置について今後どう取り組むのか？ 学校の統廃合の問題と併せて、複式学級による学校運



営についても考えていく必要があると思います。

矢板市では、今後15年計画で3中学校を2中学校に、8小学校を3小学校に、さらに1地区では小中一貫校にするようです。

複式学級では、先生が多数の学年を担当する弊害や反面、少人数学級による学力の向上など利点もあります。美里町では今後これらの問題について慎重に考えていく必要があるものと感じました。

文教民生経済常任委員会

委員長 柳沢 章

複式学級とは、2つ以上の学年の児童を1つにした学級のことです。

